

「ぼくが今できること」

善通寺市立竜川小学校 四年 塩田 恵心 さん

七月のあの日は大雨が降っていました。次の日も、その次の日も降っていました。全国でも降っていました。一日の降る雨の量がとても多くなって、何日も続きました。災害がおこりはじめました。川が氾らんしたり、山がくずれたり、道路がくずれて通れなくなったり、家が浸水したり、逃げられない人を救助している映像をテレビで見ました。ぼくの住んでいる家では、なにも被害はおこりませんでした。しかし、そうではない人たちもたくさんいました。自然の力はこんなに大きな力でぼくたちの生活を変えてしまうのかと、おどろきました。今でもひなん生活を続けていて、元の生活にもどることの大変さを感じます。

自然災害に打ち勝つことは、人には出来ません。ぼくたちが今すぐに出来ることを考えてみました。

家族で「防災マップ」や「約束事」をつくるのが大事だとも思いました。

まずは、自宅の周りの地図を持って危険な場所をチェックしたり、避難所や安全な場所への避難ルートを考えたりして、それらを書き込んだ防災マップを完成させるといいと思う。ぼくの学校では親子で通学路の危険場所を書き込んだハザードマップがあります。これも役にたちそうです。

次に家族で「約束事」を決めておくことにしました。家族が離れている時にどうしたらいいのか。待ち合わせ場所や連絡方法などを話し合う。そして決めたことを忘れないように紙にまとめておくようにする。そうするとたとえぼくが一人でいても、お父さんや、お母さんと会えると思うと安心して待っていられそうです。

あと、防災リュックづくりも体験しました。これは、テレビでやっているのを見ていいなとも思いました。やり方は防災リュックを五分で作るといふものです。実際にやってみると何を入れていいのか全然思いつきませんでした。リュックの中身は、修学旅行やキャンプをイメージするといふそうです。一日分の着替えや衛生用品、こぜにお金、薬、筆記用具、おやつなどです。知っておくとすぐに準備できそうで役にたちました。あとパーソナルカードを作って入れておくといざというときに連絡をとりやすいからです。カードには自分の名前や住所、血液型など、家族の携帯の電話番号を書いておくといふそうです。

今年の災害のニュースをみて、感じたことは、自分の命を安全を守ることが一番大切だということです。

危険だと感じたらまずは避難すること。そして助けをもとめることが大切だということです。ぼくに出来ることはもしも家族と離れていても、自分で判断して、行動できるようになることです。いざというときにぼくにできるかどうかはわかりません。全く自信はありません。でもこの夏考えたことはきっと役にたつはずで。